

第1回 徳島県鳴門総合運動公園野球場の在り方検討会議 会議録

I. 日 時 : 令和3年12月27日(月) 午後1時から午後3時まで

II. 場 所 : 徳島県庁1階 大会議室

III. 出席委員 :

美馬会長、十川委員、須崎委員、横田委員、広瀬委員、南委員、大西委員、白石委員、龍田委員、中尾委員、小川委員、赤尾委員、谷委員、小笠委員、朝日委員、木下委員、西上委員

IV. 次 第 :

1. 開会
2. 知事あいさつ
3. 委員紹介
4. 検討会議の概要説明及び会長の選出(資料1)
5. 議事(資料2)
 - (1) 鳴門総合運動公園の現状について
 - (2) 県内における主な野球場の状況について
 - (3) オロナミンC球場の現状について
 - (4) オロナミンC球場における課題について
 - (5) 質疑応答
6. 今後のスケジュール(資料3)
7. 閉会

V. 配付資料等 :

1. 【資料1】 徳島県鳴門総合運動公園野球場の在り方検討会議設置要綱
2. 【資料2】 第1回徳島県鳴門総合運動公園野球場の在り方検討会議資料
3. 【資料3】 今後のスケジュールについて
4. 次第、出席者名簿

VI. 会 議 録 :

【事務局】

本日はお忙しいところ御出席をいただきまして、誠にありがとうございます。ただいまから、第1回徳島県鳴門総合運動公園野球場の在り方検討会議を開会いたします。私は本日進行を務めさせていただきます、徳島県スポーツ振興課の秋山でございます。どうぞよろしくお願いたします。座って失礼いたします。

それではまず、お手元の資料の御確認をお願いいたします。次第、出席者名簿、配席図、資料1から3、メモ用紙でございます。恐れ入りますが、不足がございましたら、お申し出ください。

それではまずはじめに、飯泉知事より、御挨拶を申し上げます。

【飯泉知事】

本日は、第1回となります徳島県鳴門総合運動公園野球場の在り方検討会議を開催したところ、もう師走も差し迫った今日また非常に寒い中、皆様方には御出席賜り、誠にありがとうございます。

また、皆様方には、日頃から野球をはじめとして、本県のスポーツ振興に大変御尽力をいただいておりますこと、この場をお借りしまして、厚くお礼申し上げたいと存じます。本当にありがとうございます。

さて、今年も野球の話題は大変多く世界中であったわけであります。まずは、なんといっても1年延期となった東京オリンピック、この中で北京大会以来3大会ぶりに野球競技が復活を致しました。そしてJAPAN見事に予選から一試合も落とすこと無く、完全優勝金メダルに輝いたところであります。また、大リーグこちらでも大きな話題を呼びました。二刀流、最初はそんなは無理じゃないか、かつて大リーグで二刀流をやって見事に名をあげたのがベーブルース、これ以来ではないか、いや結果的にはそれ以上という話があります。大谷翔平選手が見事に、あのオールスターの時にはなんとホームラン競争これにも選ばれ、我々も拝見させていただきましたがワクワクドキドキ、すごいな、そして見事にアメリカン・リーグでMVPしかも1位満票ということでありまして、二刀流という言葉「Show Time」こうしたものが世界中を席巻したところでもあります。また、そうした意味ではこの野球について、多くの関心が県内でも起こったところでありました。その関心が見事に四国の野球の秋季大会、たいていは第一候補、第二、第三これで選ばれていくわけでありますが、なかなか四国大会が勝てない。これまで8年続いて正規では春のいわゆる「センバツ」、その基準になるのがこの秋季大会であります、その機を逸してきた徳島。しかし今回は見違えたんですね。第一、第二、第三それぞれ「鳴門高校」「徳島商業高校」「阿南光高校」の全て勝利を挙げ、このままいくと決勝は徳島県勢同士じゃないか、そうも期待が寄せられたところでありました。こうした中、鳴門高校が見事に準優勝に輝いたところであり、これまでの規定でいきますと恐らく来年の春の「センバツ」出場が濃厚となり、期待がますます膨らむこととなります。

そうした中で今日の議題とさせていただいております徳島県鳴門総合運動公園野球場「オロナミンC球場」であります、こちらにつきましてもこれまで池田高校をはじめとする高校野球人の夢の舞台と、さらには日本ハムファイターズの皆様方、この皆様方が公式戦であるいは春季キャンプで活用をされておりました。今日は南社長様もおいでいただいておりますが、また独立リーグである「徳島インディゴソックス」、独立リーグとしては史上最高3回のグランドチャンピオンに輝き、そのメイン球場でもあるわけでもありますし、また本県の球児から見事に今回はオリックスバファローズ25年振りのリーグ優勝その強い牽引となったのがパ・リーグホームラン王に輝いた杉本裕太郎選手という事で、全ての点で今の野球が、またオロナミンC球場をはじめとする本県の野球の施設、こうしたものに注目

が集まっているところでございます。

それでは、オロナミンC球場がどのような状況になっているのか、少し私の方からも御紹介を申し上げたいと思います。このオロナミンC球場であります、今年で築48年を迎えることとなります。もちろん、県としても長寿命化という事で、他の様々な公共施設と同様に、長寿命化これを果たしているところでありますが、しかし今後また皆様方にも寒い中ではありますが、御視察も今後会を進めると行っていいただければと考えているところでありますが、例えば壁面クラックがある、あるいは天井水漏れがする、まあこうなって参りますと審判員の皆様方あるいは報道関係の皆様方をはじめ多くの皆様方に快適に使っていただくことができない、これはもちろん高校球児をはじめとしてこの施設を使っていただく人にも同様のこととなるわけでありまして、非常に我々としても残念に思っているところであります。じゃあどのくらいもつのか、その耐用年数も気になるところでありまして、今日は皆様方からこの球場に対して御意見をまずいただくとともに、事務局の方からこのオロナミンC球場の現状と課題こうした点についても詳細に御説明させていただいて、今後の在り方検討会議これを進めていただければと、このように考えているところでありますので、是非よろしく願いを申し上げたいと存じます。結びとなりますが、是非今回在り方検討会議のその方向性といったものが、今コロナ禍という事で世界中で明日に向けての希望、なかなか熱く語りそれを実現をしていくことが難しい時代となっておりますが、それを打ち破る一条ならぬ大変強い希望の光を生み出していただくことができますように、よろしくお願い申し上げまして、まずは冒頭の御挨拶とさせていただきます。どうぞ皆様方よろしくお願いいたします。

【事務局】

ありがとうございました。

それでは、本日は第1回目の会議でございます。本検討会議に御協力くださいます委員の皆様を御紹介させていただきたいと存じます。

(事務局より各委員紹介)

【事務局】

以上で、委員の皆様の御紹介を終わらせていただきます。

なお、知事は公務の都合によりここで退席させていただきます。

(知事退席)

それでは、議事に進みたいと思いますが、ここで、改めまして、本検討会議の概要について説明いたします。

本検討会議は、鳴門総合運動公園・野球場の今後の在り方につきまして、委員の皆様に、それぞれのお立場に応じた率直な御意見を頂戴し、事務局においてこれを取りまとめ、今後の在り方に向けた一定の方向性を取りまとめようとするものでございます。お手元「資料1」を御覧ください。まずは、議事に先立ちまして、「徳島県鳴門総合運動公園・野球場の在り方検討会議・設置要綱」第4条に基づきまして、会長の選出を行いたいと思います。同条によりますと「会長は、委員の互選により選任する」となっておりますが、いかがでしょうか。

【委員】

私は、高野連の会長そして県教育長を歴任されました美馬委員が適当だと思いますので、御提案申し上げます。お取り計らいよろしくお願いします。

【事務局】

ただいま「美馬委員が適任」との声がございました。皆様いかがでしょうか。

【委員一同】

異議なし

【事務局】

「異議なし」のお声をいただきましたので、本検討会議の会長について「美馬委員」にお願いしたいと思います。それでは、「美馬委員」におかれましては、お席の移動をお願いするとともに、以後の議事進行についてお願いいたします。

【美馬委員】（以後、「会長」）

それでは会長の任を仰せつかりましたので議事進行を進めさせていただきます。不慣れなものでございますので進行に不手際があるかもしれませんが、皆様御協力の程よろしくお願いします。

先程、飯泉知事のほうから話がありましたように、こういう話をする時は希望の光という話がありましたが、やはりわくわく感がないと良い話ができないなど、もちろん財政的なしほりもありますが、特に本日は第1回会議ということで先程の皆様の御意見もお聞かせいただきましたけども、すぐに出来ることもあれば、ひょっとしたら先の話になるものもあるかもしれない。ですが、そういったものもコンプレッサ的に広く今回の話は議論しましてですね、そしてまずは皆様方の思いをしっかりと共有した上で今後、具体に入っていきたいという風に考えていますのでよろしくお願いします。

それでは早速、議事に入りたいと思いますので事務局より議事資料の説明をお願いします。

【事務局】

あらためまして、徳島県スポーツ振興課の秋山でございます。どうぞよろしくお願いいたします。お手元に配布しております資料2に沿って説明いたします。なお、前のスクリーンに同様の内容を映させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

資料2の1ページ御覧ください。オロナミンC球場の現状について説明するに先立ちまして、同球場が設置されている鳴門総合運動公園の概要について、皆様、御存じのこともあるかとは思いますが、改めて説明いたします。同運動公園は、昭和46年に陸上競技場と補助競技場が完成したことを皮切りに、昭和48年に野球場、昭和55年に弓道場と武道館、そして平成2年に体育館が完成し、現在の鳴門総合運動公園にある各施設の概ねが整備されました。平成5年には、第48回国民体育大会、いわゆる東四国国体が開催され、開会式、閉会式、陸上競技、バスケットボール競技、軟式野球競技などが鳴門総合運動公園で催されました。その後、平成19年にネーミングライツ制度を導入し、公園全体の名称が鳴門・大塚スポーツパークとなり、陸上競技場がポカリスエットスタジアム、野球場がオロナミンC球場、体育館がアミノバリューホール、武道館がソイジョイ武道館と呼ばれることとなりました。

2ページを御覧ください。続きまして、主な施設の概要ですが、まずはポカリスエットスタジアムでございます。県内では唯一、日本陸上競技連盟が主催する全国大会等を開催することが出来る第1種公認を受けた陸上競技場であります。現在、世界陸連・Class2認証の取得を目指し、トラック改修工事を行っており、工事完了予定である来春以降は、世界陸連公認の国際大会を開催できる競技場となる見込みであり、来年夏には、インターハイ・陸上競技などが開催される予定となっております。また、サッカーJリーグ・徳島ヴォルティスのホームスタジアムとなっており、多い日には1万人を超える観客が訪れる施設であります。

3ページを御覧ください。続きまして、アミノバリューホールでございます。体育館としては県下で最大規模の施設であり、学生・社会人を問わず、様々な大会が開催されております。老朽化した床の張替えや照明のLED化を行い、今夏には、オリンピック・ドイツ代表ハンドボールチームの事前キャンプが開催されたほか、今月初旬には、バレーボールのトップリーグであるVリーグの公式戦が開催されるなど、県内大会のみならず、全国的な規模の興業や大会が実施される施設であります。

4ページを御覧ください。ソイジョイ武道館においては、国際大会における事前キャンプ誘致を見据えて、更衣室やトイレの改修を実施し、外国人の皆様にも使いやすい施設へと変貌しました。こちらでは、一昨年の世界柔道開催時にはドイツ代表チームが合宿を行いました。また、球技場においては、ラグビーW杯・事前キャンプの誘致を行うため、芝生の全面張替を行い、冬期においても上質の芝生で競技を行える環境を整えました。この結果、ジョージア代表チームの事前キャンプ誘致が実現し、県民の多くの皆様に御覧いただくとともに、同チームのミルトン・ヘイグヘッドコーチからワールドクラスの芝生であるとの御評価もいただいたところであります。

5 ページを御覧ください。さらに、弓道場、第二陸上競技場、庭球場などの施設も備えており、まさに総合運動公園として、県民のスポーツ振興、競技力向上には欠かせない施設となっております。

6 ページを御覧ください。また、鳴門総合運動公園は、地域の防災拠点としての役割も担っており、公園全体が救助活動拠点や広域避難場所、体育館や武道館が指定避難所、さらに陸上競技場が広域物資輸送拠点となるなど、災害時においても、果たす役割の大きい施設であります。

7 ページを御覧ください。県内の主な野球場の状況であります。硬式野球を行える主な球場を資料にて列挙し、比較いたしました。まずはオロナミンC球場でございますが、両翼 99.1m、中堅 122m のグラウンド、内野 2,000 ルクス、外野 1,200 ルクスの照明照度については、県下の野球場では随一の規格であり、プロ野球を行いうる仕様を満たした施設と言えます。収容人員は公称 18,600 人となっておりますが、これは、理論上収容可能な人員を示した数であり、実際には、快適に野球観戦を行える席割りで観客を収容した場合は約 16,500 人収容となります。平成 6 年以降 28 年連続で、高校野球夏の選手権大会・徳島大会の決勝戦を開催してきたほか、高松宮杯全日本軟式野球・県予選など、学生・一般問わず、多くの重要な大会が開催されている野球場です。続いて、むつみスタジアムですが、中堅 116m とオロナミンC球場よりやや狭い規格のグラウンドとなっております。なお、今冬、両翼の拡張工事を行っており、来春には、現在の両翼 91m から両翼 100m の球場へと整備される予定でございます。近年では、主に四国アイランドリーグ公式戦の会場となっているほか、県中学総体・軟式野球競技やこども野球のつどいなども開催されており、子どもから大人まで、幅広い方に御利用頂いている野球場でございます。この他、J A アグリあなんスタジアム、蛇王（ごおう）球場、池田球場などが県内の主要球場としてあげられまして、その概要は資料記載のとおりでございます。

8 ページを御覧ください。続きまして、近年のオロナミンC球場の利用状況でございますが、表に記載のとおり、年間 140 件以上の利用件数があり、年間を通じて土日・祝日はほとんど利用予定が入っている状況です。高校生以下と一般の別に分けて利用状況をみると、学生年次の利用が多いことが窺えます。これは、近年、県下のほとんどの高校野球の大会をオロナミンC球場で実施していることが主な要因と考えられます。また、野球競技としてはオフシーズンである冬期においても、比較的温暖な気候を求めた合宿利用のニーズがあり、過去には日本ハムファイターズの春季キャンプが開催されており、近年では、鳴門市による誘致活動の成果として韓国・フィムン高校や富山県の強豪社会人チーム、ロキテクノ富山などの合宿が行われています。

9 ページを御覧ください。オロナミンC球場の歴史を振り返りますと、昭和 48 年 12 月に完成し、翌昭和 49 年には夜間照明が整備されました。また、同年にはNPB のオープン戦が開催され、高校野球夏の選手権大会・徳島大会の決勝戦もその舞台を鳴門へと移しました。昭和 50 年には日本ハム対阪急の徳島シリーズ・三連戦が開催され、第三戦には本県出身の

長池選手、三好選手、そして本日委員として御出席頂いております白石選手が出場し、駆けつけた1万4千人のファンを大いに沸かせたとの記録が残っております。昭和54年の夏は3年ぶりに鳴門にて夏の選手権大会・徳島大会決勝戦を開催。橋川ー岡田のバッテリーを擁する池田高校が優勝、甲子園大会においても、牛島・香川を擁する浪商を撃破し、決勝戦では箕島高校に惜しくも3ー4で敗れたものの、準優勝という素晴らしい結果を残しました。その後は、平成5年の東四国国体の際には軟式野球の会場となり、翌平成6年以降は夏の選手権大会・徳島大会の決勝戦を継続して鳴門にて開催しております。平成17年・3月には、NPB仕様の広さに拡張した球場のこけら落としとして、阪神対西武のオープン戦が開催され、約7,500人の観客が詰めかけました。また、同年には四国アイランドリーグが発足し、徳島インディゴソックスのホームスタジアムとしての試合も開催されるようになり、令和元年には独立リーグの日本一をかけて闘うグランドチャンピオンシップがオロナミンC球場においても開催されました。栃木ゴールデンブレーブスとの激戦を制し、徳島インディゴソックスが見事、3度目のチャンピオンに輝きました。このようにプロ・アマ問わず多くの名場面の舞台となってきた野球場であります。

10ページを御覧ください。改めて、ここまで説明申し上げてきたオロナミンC球場の状況を整理すると、まず、県下随一の施設水準を誇る野球場であり、多くの県民の関心が高い、夏の選手権大会・徳島大会の決勝戦が、毎年開催されているまた、NPBや四国アイランドリーグの試合など、プロの興行が開催されるとともに、強豪社会人チームの合宿の開催地ともなっているなどの現状を鑑みると、やはり、オロナミンC球場は本県を代表する野球場として位置づけられると言えるのものであります。

それでは、オロナミンC球場の現状について、私、都市計画課長の井上より説明させていただきます。

それでは、11ページを御覧ください。先に説明の通り、オロナミンC球場は、昭和48年12月に完成しております。収容人員は、実数で16,500人、内野スタンドが鉄筋コンクリートの二階建て、外野が芝生スタンドとなっております。その他の付帯施設といたしましては、スコアボード、照明設備、各諸室を備えている現状です。

続きまして12ページを御覧ください。オロナミンC球場のこれまで整備をしてきた状況について説明いたします。平成14年度につきましては、スコアボードの改修といたしまして、手書き式から、表示が見やすい磁気反転式に改修し、観戦者及び利用者の環境の向上を図っております。

13ページを御覧ください。グラウンドの拡張であります。昭和48年に完成した当時の球場につきましては、資料2の13ページ左下に記載の通り、社会人軟式野球仕様となっております。両翼については91.7m、センター120mとなっており、軟式野球に対応した球場としてオープンしておりました。平成16年度に、この規格を外野スタンドの芝生を一部減らすような形でグラウンド面積を拡張しておりまして、プロ野球の公式戦(NPB)に対応できるよう、両翼を91.7mから99.1mに、センターを120mから122mの規格を有しております。

続きまして 14 ページを御覧ください。内野スタンドの耐震改修工事ではありますが、内野スタンドの耐震性能につきましては、資料に記載のとおり、最低の I s 値(構造耐震指標)が 0.13 ということで大きな地震では倒壊する恐れがある状況でございました。この状況から、耐震ブレースの増設、増設壁の設置、また耐震スリットを設置する改修を行いまして、I s 値(構造耐震指標)が 0.76 となり耐震基準を満たすような改修を平成 19 年度に行っております。

15 ページを御覧ください。照明塔の改築工事ではありますが、資料に掲載しております写真は改修前の照明塔のものです。かなり老朽化が進んでおりましたので、平成 27 年から平成 29 年までの 3 か年をかけまして、6 基全ての照明塔について改築を行っております。照明塔は元々、軟式野球の一般競技仕様といったレベルで整備をしておりました内野の平均照度が 500 ルクス、外野が 300 ルクスといった規格でございましたが、この改修によって、プロ野球(NPB)ナイター公式戦も可能となるよう、内野については 2,000 ルクスへ、外野については、1,200 ルクスの照度まで対応できる仕様となっております。なお、この照明塔につきましては、全てが点灯したときに必ず最大ルクスになるというものではなく、それぞれの用途に応じて 5 段階の照明照度が確保できるような運用方法を行っております。

16 ページを御覧ください。球速表示機の設置工事についてですが、利用団体の皆様から、スピードガン(球速表示機)の御要望をいただいております。平成 29 年度に球場の照明塔の完成に合わせまして、スピードガン(球速表示機)を設置しております。スピードガンの表示板につきましては、スコアボードとバックネット裏にそれぞれ設置し、競技環境の向上を図ったところであります。

17 ページを御覧ください。冒頭の知事の挨拶でも触れましたがオロナミン C 球場の長寿命化計画でございますが、各施設において、徳島県でも導入しております。公園につきましても施設や遊具について、公園利用者が安全に御利用いただける視点や、ライフサイクルコストの縮減の観点から、適正に施設の点検を行い、計画的な修繕や改修、更新を行い施設の延命化を計っていくというような取り組みを行っております。資料に概念図の記載がありますが、部分的な補充を繰り返しながら、少し悪くなってくると修繕を重ねて健全度をあげていく、それらを繰り返していくことで結果的にライフサイクルコストが抑えられるよう取り組みを行っております。

18 ページを御覧ください。具体的にオロナミン C 球場における長寿命化計画につきましては、設置年度である昭和 48 年 12 月に設置されまして経過年数としては 48 年が経過しております。オロナミン C 球場は予防保全型の施設でございますので、修繕をしながら長期的に使用する施設に分類されます。耐用年数と一般的に言われるものが処分制限期間になります。補助金等適正化に関する法律の中では 45 年間と決められております。既に 45 年から 3 年が経過しておりますが、長寿命化計画では今までの施設を計画的に修繕を行いながら使用見込み期間を伸ばしていく取り組みを進めております。処分制限期間の 45 年に対して、これを 1.2 倍に伸ばしていくことが計画全体の内容となります。それでも、使用見込み

期間としては54年間となりますが、現在48年経過しておりますので猶予期間は後6年に迫っている状況です。長寿命化計画につきましては、整備された昭和48年から既に長寿命化計画が策定されていたわけではなく、国から公園施設については平成24年度にこのような長寿命化計画を策定し施設を延命化していく流れで来ています。鳴門総合運動公園、オロナミンC球場を含めまして平成25年度に長寿命化計画を策定し、以後はできるだけ早期に修繕を行いながら長寿命化を計っていく形で取り組みを進めているところでございます。

19ページを御覧ください。長寿命化計画を策定し、計画的に整備、改修を行ってきたところではございますが、施設設置後に事後保全型の施設として管理を行ってきたこともありまして、様々なところで老朽化の進行が見られます。19ページではオロナミンC球場内野スタンドの一階部分における老朽化の状況の位置図と写真を添付しています。写真①では、バックネットの支柱の腐食が進行しており、写真②では天井部分にかなりクラックが入っています。写真③では一階部分の役員室等複数の部屋で雨漏りが発生しており、その都度補修を行っておりますが、雨漏りを完全に止めるまでには至っていないため、各部屋の使用に支障を来している状況であります。写真④では、鉄製扉の腐食が著しく、開閉に支障を来している状況であります。

20ページを御覧ください。オロナミンC球場の内野スタンド2階部分の状況について位置図と写真でお示ししております。写真①では、二階コンコースから上の天井部分のコンクリートの中に入っている鉄筋が腐食しており、コンクリートのはく離が多数発生しております。はく離した部分につきましては資料右上写真のとおり補修を行ってきたところです。写真③では、鉄筋のかぶり不足によるコンクリートの剥落が発生しており、大規模な修繕が必要な状況となっております。

21ページを御覧ください。スタンド部分の老朽化を表した写真を掲載しています。写真①では、スタンドのクラックが大きくなったことにより、ベンチが破損している状況であります。また、写真③では、スタンドの変形により、横断通路が傾いており、抜本的な改善が必要な状況であります。写真④では、施設が古いため現行の規準に適合していないものであり、既存階段の一部で蹴上高さが22cmであり、現行規準の18cm以下を超過しており、抜本的な改善が必要な状況であります。これらの写真は、当検討会議が開催されるにあたりまして、あらたに今月12月に撮影したものになります。

22ページを御覧ください。こちらは、先に説明させていただいた老朽化等の調査結果の状況を公園施設長寿命化計画に基づく老朽化対策健全度調査結果としてまとめたものであります。老朽化した施設の現状として、鉄筋のかぶり不足やコンクリート片の剥落、クラックの発生、鋼材に腐食が発生するなどしてありまして、国の「公園施設長寿命化計画策定指針」に基づき、健全度判定を行った結果、4段階評価のうち、悪い方から2番目の「C評価」となっております。これは、「全体的に劣化が進行し、利用を続けるには部分的な補修、若しくは更新が必要」とされる段階に達している状態であります。

23ページを御覧ください。施設を管理運営する上で、利用者の方々から県に届いている施

設の課題を説明させていただきます。まずは、主に選手の皆様が使用される部分での課題や問題点ですが、一つは、ダッグアウトの問題です。

昭和48年建設時のままの広さとなっており、「狭く、使いづらい」という声を頂いております。また、近年、夏の酷暑により「熱中症対策」が野球場においても必須となっております。高校野球夏の選手権大会・徳島大会開催時には、高野連さんが独自にミストシャワーを設置して、選手・監督等の熱中症対策に取り組まれているとお伺いしております。さらに、控室や室内アップ場が整備されておらず、大会開催時には、次の試合を待つチームの皆様がアップを行える場所がなく、また、球場付近も公園の園路であるためボールやバットを使ったアップが出来ないなど、大会運営に支障があるとの御意見を頂いております。この他、ブルペンの天井が低く使いにくいなど、建設当時と現在における標準的な仕様の差から様々な御要望があるところです。

24ページを御覧ください。役員、審判、記者、記録員など大会運営に関わる皆様が主に使用される部分についての課題や問題点でございます。まずは、先ほど施設の老朽化の説明の中でもありましたように、バックネット裏各部屋における雨漏りがあげられます。また、先ほどの熱中症対策と同様に各部屋への空調設備の設置についても、順次、施設管理者において対応をしているところですが、まだ十分な状況ではないと承知しております。この他、「切符売り場について、狭く、個別に鍵の管理が必要となることから使いにくい」という声や、「正面玄関のタイルが雨天時にすべりやすく危険である」などのお声も頂いているところです。

25ページを御覧ください。観客席やコンコースなどの、観客の皆様が利用される部分についての課題や問題点についてですが、バックネットの範囲が狭かったり、両ベンチ上部の防球ネットが仮設であったりすることから、ファールボール時にしっかりと観客席を防護するフェンスが必要であるという御意見や、スロープが一塁側にしかなく、また、エレベーターがないことなどから、特に車いすで利用される方へのバリアフリー対応が十分ではないという御意見を頂いております。

さらに、小さいお子様連れで観覧される方が、授乳やおむつ交換が出来る多目的室のようなスペースについても必要とのお声も頂いております。また、スタンドには屋根がかかっておらず、夏場の熱中症対策や、雨天時の一時避難場所などとして利用できるスペースがないことについても、不便である旨の御意見を頂いているところです。「オロナミンC球場の現状と課題」についての説明は以上となります。様々御意見をくださいますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【会長】

ありがとうございました。かなり膨大な説明になりましたが、ただいまの説明につきまして、まず何か質問がございましたら事務局より回答していただきたいと考えております。どなたからでも結構です。また、先程の冒頭の御挨拶で御発言いただいた内容と重なっても構い

ませんので、ただいまの説明に対してまずは御質問等はございませんでしょうか。

【委員】

在り方検討会議のプロセスとして、結局耐用年数が近づいているため、それをとところどころ補修しながら行う検討会議にするのか、中長期をもって全面的にやりかえる、先程委員の方からも御意見があったと思いますが、やはり付け焼き刃、ところてんでは対応しかねるのではないかと考えています。ですから、オロナミンC球場を全面的に本当はやり替えていただきたい、そしてサブ球場も設置していただきたい。ですから、広域避難場所でもあるんでしょうけれども、駐車場をいわゆるオロナミンC球場、ポカリスエットスタジアムあたりまで拡張してね、そして野球場に先程もありましたようにエレベーターはポカリスエットスタジアムのほうにはございますけれども、やはり駐車場を広く健全者でない方の駐車場をたくさんとっておりますが、そこから野球場に行くのも大変ですし、オロナミンC球場だけでなくポカリスエットスタジアムの方に行くのも大変です。距離が有りすぎるので、そういう人のためには野球場の入口のあたりにそういう駐車場を設置すべきであって、今ある駐車場は少し健全者でない方への配慮が欠けている。ですから野球場全体をやり替えるのか部分的にやり替えるのか直し直していくのかといった指針を教えていただければ議論もまた変わってくるのではないかと考えています。以上です。

【会長】

ただいまの意見につきまして、事務局より回答をお願いします。

【事務局】

ただいま委員より、建て替えとすべきなのか、それとも修繕としていくべきなのかの方針をと言うことで御意見頂戴しております。

本日、説明させていただきましたとおり、オロナミンC球場は抜本的な対策の検討が必要な状況ということは我々も承知しております。建て替えとするのか、それとも既存施設の改修とするのかは、このことを今後の検討会議の検討対象といたしまして委員の皆様から頂く御意見を参考に県として検討して参りたいと考えております。もちろん既存ストックの有効活用という前提で修繕ということも重要であると考えておりますが、一方で先程、説明申し上げたとおり健全度調査の結果がC評価とされていることから、建て替えを検討と言うことは必要であるというふうにこちらのほうも承知しております。ですので様々な可能性を含めて検討いたしましてより適切な対応をとることができるように委員の皆様から御意見を頂戴したいと考えております。また、そのような中で、先程もお話しを頂きました、サブ球場でありますとか、それから駐車場等の御意見につきましても頂戴しながら総合的に考えていきたい、このように考えております。以上でございます。

【委員】

ありがとうございます。

【会長】

他に御質問ございませんでしょうか。

【委員】

先程の事務局からの御説明にもありましたが、鳴門大塚スポーツパーク自身が防災の様々な機能を持って頂いておりまして、先程言葉足らずで申し訳ないが、検討にあたりましては防災機能の向上についての観点でも御検討頂けたらと言うふうに思っておりますのでお願いいたします。

【会長】

防災機能の向上について事務局からお願いします。

【事務局】

防災機能の向上ということで、資料の中にありましたように、現在でも鳴門大塚スポーツパークの各施設は防災機能を有しているところでございます。また今回オロナミンC球場を今後修繕もしくは建て替えるような形になった場合におきましても、十分な防災機能が発揮できるようなそのような前提のもと計画を進めたいと思います。またこちらのほうにつきましては、皆様方の御意見も頂戴しながら進めて参りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【委員】

ありがとうございます。よろしくお願いします。

【会長】

その他に御質問等ございませんでしょうか。

【委員】

20数年前に高校野球の解説をしたり、その後インディゴソックスに携わってきました。ちょうどそのときにヴォルティスができましたね。我々グラウンドの中のことで一つ思ったことはグラウンドの整備が非常に悪い。建設的な意見と逆になりますけど、インディゴソックスのときにも、グラウンドに水がたまっているので整備の方に土を入れて下さいとお願いしても土はないとそういった話もありました。いろいろな意見を言ったときに、県が聞いてくれないといった話もありました。最近は整備の方も、この前確認しましたが黒土

の準備もあるというふうに聞いております。そういったことと、我々野球関係者からすればヴォルティスにすごくお金を使うのかと野球関係者は思っていると思います。その分野球場に手をかけたのかと疑問に思います。資料をお見受けするといろいろな耐震工事を行っていることは分かりました。しかし、クラックなど発見したときその都度対応すべきだったのではないのでしょうか。インディゴソックスのときでもそうですが、記者席には空調がありません。私が中学生の公式野球チームを引率し愛媛県に野球の試合で行ったときに、愛媛県では市営球場ですら記者席に空調がありました。夏の暑い時期に記者席の窓を開けたときに埃まみれだったのでテーブルを拭いたことがあります。記者の方たちはパソコンを使い仕事をするとするがそのような状況では、業務に支障がでるのではないかと思います。あえて言わせて頂くと、徳島県は野球場どうかしないといけないという気持ちがなかったのではないかと思います。話を変えますが、JA アグリあなんスタジアムでも同じことが言えますが、グラウンドの中は良いが付帯設備は全く不十分だと思います。ネットは二重に張られているが観客席へボールがこぼれることがあります。何度も言いますが、徳島県は高野連など野球関係者の意見を聞いているのでしょうか。数年前にオロナミンC球場でもベンチ裏のトイレの改修に加えてロッカールーム、シャワールームが増築されました。知事は以前からNPB誘致に意欲的だが、外野100M拡張だけでは不十分です。両ベンチにそれぞれ2つずつトイレがありましたが、今時ウォシュレット機能がない状況でNPBを誘致するのは難しいのではないのでしょうか。そのようなことを挙げればきりが無いと思います。そのようなところにも十分配慮していただきたい。本来は球場を建て替えるのがベストだと思うが、簡単ではないと思います。徳島県にはもっと野球場に目を向けて頂きたいと思います。

【会長】

ありがとうございます。今までのオロナミンC球場等についての改修も含めての徳島県の姿勢に少なからず不満をお持ちだったが、今回の検討会議がそういった不満を解消することにつながるのかどうかを事務局から説明をお願いします。

【事務局】

委員からグラウンドの整備を初め様々な管理について御意見を頂戴したところでございます。管理につきましては県及び管理者共にこれまでも工夫を続けてきたところでございますが、なにぶんにも古い施設でございますので限界もあったところでございます。これまで十分にそういった不満にお返事ができなかったところはあったかと思いますが、今回このような会議を設けまして、今後、検討を重ねていく中で委員の皆様の御意見を賜り、また、後ほどになりますと、プレイヤーの皆様を初め、県民の皆様の御意見を頂戴しながら、今後、どのような形でオロナミンC球場をより良い施設にしていけるのかについて検討していきたいと思います。また、今後の管理につきましても、委員の皆様、プレイヤー、並びに応援

される方からの御意見も賜りながら進めて参りたいと思います。御意見ありがとうございました。

【会長】

ただいまの御意見は大変重要だと思います。我々もそういった御意見をしっかりと県に挙げていくことが大切です。今回、県がこのような在り方検討会議を設置したことは、今までの個別の要望に対応するようなものではなく、すべての御期待に応えられるかどうかはわかりませんが一つの節目として、しっかりとした野球場に持つて行くための検討会議であるということです。ただいまの御意見もしっかりとお聞かせいただいて今後の参考にさせていただきたいと思います。

他に御意見、御要望ございませんでしょうか。

【委員】

現状を考えていただく参考に、年間を通して最も利用させていただいている立場から改善していただきたいポイントを何カ所かお話しさせていただきます。一つ目はスタンドが低い場合外にファールボールが飛び出していることです。一塁側については駐車場側に高いネットを設置していただいたので、危険性はかなり解消したと思います。ただ、バックネット方向や三塁側方向には、たくさんボールが飛び出しており、注意喚起のペイント及び看板の設置をしていただいているのですが、それらを見ていない方が公園にはいらっしやいますので、特にヴォルティスがイベントを行っているときに子どもたちがペイントの中に入ってきて走り回っていることがあり、そこにファールボールが飛んでいくことがあります。我々も監視員を手配し注意喚起を行っているところではあるが、危険性は拭いきれない状況です。また、高校野球ではテレビ中継が入りますが、テレビ局の中継車にボールがあったことがあります。テレビ局からは屋根がある場所に駐車させてほしいと言った要望がありました。決勝戦では3社中継車が入りますが、いずれも屋根のあるところに駐車できていない状況です。

次に、来賓、審判員及び資材運搬車のための駐車場が球場のまわりにはありません。たとえば、大会の開会式には県からも来賓として来ていただきますが玄関の前に車を止めていただくことしかできません。他県の野球場は屋根のある玄関の横に来賓用の駐車スペースがあるので、わざわざ遠方の駐車場に止めていただく必要がないです。

次に、バリアフリーについては先程も話題に挙がりましたが、現状、三塁側は車いすの観客は入場できないため、周りの人間が担いで入場させるといった危険なことを行っているチームも見受けられます。また、試合後は清掃を行っているが、モップを洗うことが出来るシンクが女子トイレにしかないため、大変不便です。

また、スコアボードについても、他県の球場ではデジタルビジョン等に変わっており、ファールボールの注意喚起以外にも熱中症の注意喚起であったり、車両の移動等を御案内する

ときにスコアボードにメッセージを表示しています。徳島県ではそれが出来ないためすべて場内放送で行っており、お客様からは徳島県の野球場は場内放送が多すぎるのではないかとの意見もあります。そういったところにも対応する必要があるのではないかと思います。

先程、他の委員から話題にあがっていましたが、サブグラウンドや室内練習場がないため、鳴門市等の自治体が合宿を誘致する際は雨天時にはおそらくお困りのことと思います。

JA アグリあなんスタジアムはあなんアリーナがあるため合宿誘致には困っていないのではないかと思います。鳴門市が合宿誘致の際は困りだと思います。また、試合前に選手がアップをする場所がないため沿路でせざるをえないため、高校生がダッシュをする中、小さい子どもが歩いていることもあり、大変危険です。

次に、審判室が一試合に4人用に作られていると思いますが、現在は熱中症対策のために審判は交代制で行っています。3試合行くと12人のスペースが必要となり、現状の審判室では全く不十分です。それから役員室には空調設備がないため役員が熱中症になったことがあります。高校野球は夏に行うため、グラウンドには生徒の熱中症対策のためにミストを設置するが、役員等の熱中症対策が不十分だと思います。

次に、新型コロナ対策のため看護師を隔離したスペースにて待機していただく必要があるが、そのような独立したスペースがありません。トレーナーも同様です。

次に、取材スペースがないため観客がいる通路で監督がインタビューを受けるしかありません。また、老朽化のため二階のトイレが漏水してチケット売り場に漏れてきてことがあります。それから、熱中症対策のためスポットクーラーを設置したくともブレイカーが落ちるため使用できません。また、スタンドに扇風機を設置したくてもスタンドのコンセントの大半は漏電のため通電しておりません。また、チケット売り場が独立しており不用心であるため、むつみスタジアムのように一体化したものが望ましいと思います。

最後に駐車場の数ですが、全部で500台しかないため、高校野球の試合では観客人数が1000人を超えると苦情の電話が来ます。観客数が1000人を超えると路上駐車が増えるため近隣から苦情が来ます。改修や改築を行い良い野球場を作っていただいても観客数1000人で苦情が来る現状では1万人を超えるイベントはできないのではないかと思います。駐車場についても御検討いただけたらと思います。

最後に、グラウンドの水はけについてですが、雨天の際に四国四県で徳島県のみ中止となる場合がよくあります。現場のキーパーの方にはよくしていただいているとは思いますが現場の人間には根本的な水はけの問題は対処しきれないと思います。

以上が高野連が困っていることになりますので参考にしていただければ幸いです。

【会長】

ありがとうございました。非常に具体的に困っている点をあげていただきました。このような御意見は事務局で集約し、カテゴライズしていただければと思います。駐車場に関するこ

と、バックネットに関すること、漏電に関すること、また待機スペースについても、今後建て替えたりした場合に後になり不足しているようなことにならないように優先順位をつけて検討していかないといけないのではないかと思います。

ただいまのような具体的な話や大きな話でも構いませんので、視点としましては、プレイヤーサイドの視点と判員やトレーナーや看護師等、それらをサポートする関係者の視点、メディア側の視点、また観戦する側の視点があると思いますが、どこからの視点でも構いませんので他に御意見はございませんでしょうか。

【委員】

私たちがいつも感じているのは、オロナミンC球場の利用頻度が高く、むつみスタジアムは稼働率が落ちています。できたら、むつみスタジアムではなく、オロナミンC球場に野球の関係者が入れるような事務所を公園内に、施設に置いていただけないかと。私どもはこの12月21日に一般社団法人登記が終わりまして、来年の1月1日から一般社団法人として運用をするようになります。今はいろんなところを間借りをしてやっております。私の連盟の事務所に高野連、中体連、その他全てのメールとか問い合わせの電話が入るんです。よその県全てではありませんが、他の都道府県に行くと、公の施設の中に野球連盟が入っているところが多々あります。そして、行政から間借りをさせていただいている。徳島にもそういうところがあれば、高野連さんも、我々も、インディゴさんも、いろんなところ中体連もみんな入ってやればありがたいないつも思っています。それぞれ所帯も違うので、難しい問題もあるかと思います。球場の後ろにスペースがあって、ずっと空いている状況があるので、そこを事務所にお借りできたらありがたいなと。徳島県野球協会みたいな感じでお借りして、こっちは高野連、こっちは軟式野球連盟、こっちはパブリックベースボールというように、パーティションで仕切って、そうするとありがたいと思い、参考意見としてお聞きいただけたらと思います。

【会長】

ありがとうございます。あとまた大きな事でこういう事ができればという施設にして欲しい、先ほどエンターテイメント化やプロ野球の誘致ができる施設という話もありました。そういう機能ですね、球場として機能的なものでこういうものを作ってくれないかという話でも結構です。また、本日は建築関係の専門の皆様方も来て頂いておりますので、後ほどその点からお話しいただければと思います。

【委員】

大きな視点という話で良ければですけど、NPBをもし呼ぶんであれば、トラックマンだったりとか、ラプソードだったり、計測機器が球場に備えつきで当たり前になっているので、そういうのがないと、なかなか魅力のある球場にはならないと思います。あとは、音響だっ

たり、オーロラビジョンはなくてはならないものになっています。どこまで球場をよくするかということにもなりますが、あった方がいい。最先端を行くのであれば計測機器というのは絶対必要になると思います。

【会長】

ありがとうございます。

【委員】

私が公式記録をつけていていろんな球場に行ったときに、高いところからつけたらつけやすいんです。いつもグラウンドと同じ高さでつけているのですが、一度ラジオ放送をしているところでつけないかと思いながら叶っていないんです。この際、放送室、公式記録員がいるところを全て上に上げることができればすごくうれしいと思います。そうすると部屋が空いてくるので、審判室が狭いとかも解消されるかと思います。上から見るということは、いろんなことを解決しないと全てを上を持って行くことは無理かもしれないが、それも一つの方法かと思います。

【会長】

ありがとうございます。今のような御意見も大事にしたいと思います。

他にございませんでしょうか。先程、女性の視点という話もありまして、他委員さんからも、そういう話がありました。何かございませんか。先程言い足りなかった部分とか。

【委員】

今、徳島県でも野球をする女の子が増えてきている中で、そういう頑張っている女の子たちを見る機会が少ないです。女の子たちも私もこれくらいできるという目標の選手を見る機会もないので、阪神タイガースだったり、西武ライオンズだったり、男子のプロ野球チームも今女子チームを作ってくれているので、そういう女子チームを徳島県に呼んで、プレーしていただけたら、女子選手も憧れの選手だったり、自分もこうなりたいと思ってもらえるのかなということもあるので、同じ意見になるが、女子選手にも使いやすい施設になれば、もっと女子野球も広がっていくと思うし、たくさんの人に知ってもらえるきっかけなと思います。

【会長】

ありがとうございます。野球人気と言っても、世の中男女という風に規定してはいけなかもしれないが、男性もいれば女性もいるということで、女性のファンを多く取り入れる必要があるのではないかと思うので、非常に貴重な御意見であると思います。他にございませんでしょうか。

【委員】

トイレなんです、私はスタンドのトイレにはあまり行ったことはないのですが、一度保護者の方が小学生の娘さんを連れてきて、洋式トイレがないのでここにはありますかと来られたことがありました。最近子どもも洋式トイレでないとできないようになっていきますし、また私たち役員が使っている女子トイレも洋式は1つだけで、それも水の流れが悪く、ずっと押さえないと流れない状態です。また外部の方が外から入ってきて、男性が女子トイレに入っていたのを遭遇した人がいてすごくびっくりして、誰でも入れるから仕方ないんですが、そういうことも考えていただきたいと思います。

【会長】

ありがとうございます。球場の快適さということ。トイレはもちろん、先程ウォシュレットの話も委員さんからもありましたが、使用するもの、トイレなんかはいろんな施設を作るときに大きな役割があると思う。トイレ、それから更衣室など、そういった部分をしっかりと快適さを追求していければということを御要望としてお願いしたいと思います。

【委員】

今回の検討会議とは少し外れるかもしれないのですが、今の話で、鳴門運動公園の中のトイレの案内は実は見にくいんです。チケット売り場の近くにトイレはないんですけど、高校野球の時に。今はコロナ対策があって、部外者は球場の中に入れないということになっていますが、トイレがどこにあるのかわからないので、大会本部の方に「トイレを貸してください。」という人がたくさん来ます。御高齢の方とか遠いところまで移動できないという場合があって、仕方なく中へ入れて「どうぞお使いください。」とは言うんですけど、本来は感染対策のマニュアルからいくと中に入れたらアカンのです。結局場所がわかりにくいということで、困っている方が現状たくさんいるので、改築・改修にしても、表示を見直すことはすぐできるのではないかと思いますので、それは改善できるのではないかと思います。場所がわからず困っている方がたくさんいます。球場を全部閉めると球場の周りにほとんどトイレはないんです。ポカリスエットスタジアムとの間とか、駐車場の端っことか、割と遠いところにしか外部トイレがないので案内の見直しはできたら早めをお願いしたいと思います。

【会長】

それにつきましては、適宜対処していただきたいと思います。

【委員】

要望という形なんです、今コロナ禍になって、インターネットのライブ中継をずっと試合やっているのですが、ネットの有線と無線 LAN が30分か40分で切れるので、ネット中

継がオロナミンC含め、蔵本もそうなんです、やりにくい状況で、一試合あたり大体二万円位かけてネット回線を買ってやっている状況なので、そういう点も改善していただければ我々ももう少し楽になるなと言う考えもあります。

【会長】

わかりました。中継は大事な広報にもなるし、大事なことです、そこら辺も入れておいていただけたらと思います。先程、使用頻度は少ないのですがという話で、委員さんの話がありました、また使用の仕方についても、また別途考えなければいけないことだと思います。今回の球場について、御要望することという視点でありますか。

【委員】

この現状の写真をを見せていただいたら、陸上にしても、体育館にしても、サブコート、サブグラウンドっていうのがあるんですね。でも球場に関してはサブがないということも非常に使い勝手、非常に難しい。壮大な考え方なんです、愛媛県だったらぼっちちゃんの横にマドンナがあるというようなところもありますし、非常にうらやましい部分もありますので、できればサブがあれば、子どもたちも利用する人も非常にやりやすいと思います。全体を見て、スポーツパーク的な改修ができればありがたいと思っております。特に駐車場が少ないので、オロナミンC球場は使いませんけど、総体の時にはポカリスエット、体育館、ソイジョイ、アミノバリューを使いますので、その時には全然駐車場が足りません。いつも大塚さんをお願いして、駐車場をお借りしているので、できれば全体の利用がしやすいようなスポーツパークにいただけたら非常にありがたいなと思っております。

【会長】

ありがとうございます。

【委員】

ずっと聞かせていただいた中で、先ほど話しましたサブグラウンドがあれば高校野球が4試合できるのではないのでしょうか。サブで練習をして会場へ入れると思います。それと、本球場が借れなくても我々のレベルならサブだったら借れます。先週大会があり倉敷へ行ってきました。倉敷近辺では全部で7球場あります。倉敷市内で3球場を市の行政だけで行って、驚きました。現在、徳島市は市民グラウンドもないので貧弱だと思いました。実際にこういった検討委員会を行っても修理か建て直して我々サイドの問題ではないです。これをきちんと決めていただいてそっちの方へ話を進めていくしかないと思います。皆さん新しい方がいいと思うけれど、いろんな理由があって、実際にいろんな写真を見ても大概状態が悪いところが多いです。オロナミンC球場も長いこと使っていて、先ほど話に出たように駐車場から中までトイレが全くないので歩いて行かなければなりません。それと今の

子供が、座ってするトイレは絶対使っていないです。皆さんの自宅でくみ取り式のトイレを使っているところがありますか。それを全く無視していて、子供がトイレに行けなくて困っています。トイレにこけたといったことが多いです。だから、できたらそのことと、委員が言われたように、女子の更衣室だと思います。最近女子野球の選手が増えてきて、それこそこの間1m60cmある知り合いがいて、前回の会長さんがこの人のトイレをどうしたら良いかと質問がありました。だから、学校の施設を使うかなかったら更衣室としてコンビニにいったいこいというようなことがありました。このような返事しかできないのが現状です。トイレだけは早くどないかしてほしいですね。以上です。

【会長】

ありがとうございました。それでは、今日の話の中で建築関係の皆様が入れる機会がなかったようなんですが、今の話を聞いてもしくはこの写真を見ていただいて御意見を聞かせていただければと思います。

【委員】

今までの話を聞かせていただいて、グラウンドの部分の課題あるいはスタンドの部分の課題というのは今日出た御意見を整理して、今後建て替えというふうになるのであれば、建て替えの設計する事務所・建築士・設計士・建設会社の方たちにこの条件に沿って設計してくださいと言うところであれば解決できていく問題であると思っています。一方で、こういった施設の建て替えの工事のときに、じゃあどこで建て替えるのか現地で建て替えるのか、別のところに代替地を持ってきて建て替えるのか、それが問題になります。そういった意味では、この会議のタイトルである運動公園野球場の在り方というタイトルなんですが、仮に現地に野球場を建て替えるのであれば、いわゆる先ほどから話に出ているサブグラウンドや屋内での練習場としてアップするようなところはこの中でいうと公園の部分全体を含めて考えていかなければいけない、あるいは球場を使いながら建て替えるのであれば隣接するところ1ページの地図を見ると、そういったところは無いような状況ですが、隣接地に新しく建てながらそれこそほんとうにそういった場所があるのであれば、隣接地に新しい球場を建てて現地のところにサブ球場あるいは付随施設・駐車場を建てるというのを一体的に整理できたら1番ベストであると思います。しかし、なかなかそういう条件でも無い中、この会議でどこまで隣接地に建てるあるいは、公園の中の他の施設として多少緑地の部分や、水面の部分はありますがそういったところも含めてこの球場の部分として検討してもいいのかなと、そういった条件整理なんかも次の会議以降お聞かせいただけたらと思います。

【会長】

ありがとうございます。それでは、今の御質問に対して、事務局の方からをお願いします

でしょうか。

【事務局】

はい、ありがとうございます。現場で建て替えるのか、それとも別のところに一旦置いてサブのところを建てるのかといった御意見かとは思いますが。まずもってオロナミンC球場というところで、委員がおっしゃった通り現在の鳴門総合運動公園の敷地の中には新たな建物を建てるといったスペースはなかなか難しいというような状況ですので、現場でこのオロナミンC球場を建て替えていくような考えを我々は今持っているところであります。その中で、改築なのか改修なのかというようなところを御検討いただけたらと思います。また、皆様方からいただいておりますサブグラウンドのお話というのは大変必要性につきましては我々痛感しているところではございますが、費用面・整備計画的にもなかなか一朝一夕にできるものでもないと思っています。まずもってオロナミンC球場の改修というのを前提で進めさせていただければと思います。ただ、それを新たな施設としてサブグラウンド等などの御意見を封じるわけではございません。御意見を頂戴した後、先ほどお話しにもありましたように安全面や、快適な部分というを第一に考えさせていただいて、オロナミンC球場をどういう風に改修・改築していくのかというのを御議論いただいた上で、今後よりよい球場になためにはどのようなものが必要かというのもお考えいただいて、その中でカテゴリーをしていきながら優先順位をつけさせていただけたらと思っております。また、優先順位のあり方については今後の会議の中で御検討いただくことになろうかとは思いますが。まずもって現状の場所でオロナミンC球場をこの場所でどのような形で改修・改築していくのかということの御議論を聞かせていただけたらと思います。以上でございます。

【会長】

よろしいでしょうか。この場所でのいうのをまず1番にということで、もちろんサブグラウンドについてもいっぺんにはいかないかもしれませんが、これほどいろんな場面で要望もあって、そして実際的にいろんなものを誘致する場合にどうしても必要になるであろうといことは十分分かっているんで、それは意見として受け止めていただけたらと考えています。また改築かというのは、こういうものがほしい、こういったものを造っていくのが良いだろうというのがこの議論で出てきた場合に、必要なところを改築をして、改修で行けるところは改修でと考えていくのもいいんじゃないでしょうかね。必要があれば改築も検討することとかまいませぬね。はい、わかりました。

【委員】

今たくさん御意見から、私自身はあまり野球に触れてきてはいないところなので、すごくリアルな声を聞かせていただいたと感じました。その中で、48年前に建った建物・当時必要だった物と、今現代に必要なニーズが異なってくるのは当然であると思います。できる範

囲の改修をされてきている中で、建物としてのところと、本当に使われているの使いにくさといったところがあると感じました。例えば先ほど話に出た水捌けの部分などは、野球としては影響を受けることから、建物以前に実際に不便な部分は、今すぐ見直せる場所としてまだまだ他にあるのだらうなと思いながら聞かせていただきました。また、先ほどのエアコン・苦情・屋根の話から、私自身も若い頃は現在のように熱中症は聞かなかったので環境としても変わってきている部分があるので、今必要なことはきちんと見直していく必要があると思いました。

【会長】

ありがとうございます。今に合ったものになっていかなければいけないということですね。

【委員】

はい。いろいろと競技に触れられている方の貴重な御意見として伺い、逆に教えていただきたいなと思ったことがあります。倉敷と松山坊ちゃんスタジアムの話等が出た中で、資料の中に県内の球技場との比較表から近隣他府県との比較で徳島県が目指すべき1番近い施設が、何県のどういった球場なのかということを知らないので、今後のために教えていただきたいです。当然プロ野球チームがあるようなところには、立派な施設があるかと思いますが、そうでないよく似た規模感の都道府県でどういった施設が設備されているのかというのをぜひ整理いただけたらと思います。また、サブグラウンドの話が出ていますが、おそらくこの鳴門総合運動公園は緑化率が決められていると思うので無暗やたらと緑を減らして、いろいろ造れない現状もある気がします。さらにトイレの話ですが、設計の立場から申しますと10年前までは、大便器が5個あれば、1、2個は和式にしておかないと逆に怒られていました。和式が1つもないのは、特に女性は洋式を嫌うので和式は絶対だと10年前までは言われていたが、それが今では全然そうではないことから、時代の流れの速さは一方であってこの今後の改修建て替え工事では50年後を予測しながら設計する側は考えないといけないので、非常に今の世の中めまぐるしく変わっているので難しいです。おそらく今から設計するのであれば、男子と女子だけでなく何種類かのトイレが必要な時代ですね。オリンピックではすでにそうになっていたと思います。そういったことも踏まえながら、今後話を進めていけたらと思います。以上です。

【会長】

ありがとうございました。今のオリンピックを例に挙げて話していただきました。本当にジェンダーの意識も変わってきていることや、仕様についても10年前とは全然違うことから、近隣の目指すべきようなモデル又は、先ほどの話に出たオリンピックも本当に新しい考え方の例として取り入れていただければと思います。時間が押し迫って参りましたので全員の方にお話いただきたいのですが、これだけは話したいといったことがあればお願いしま

す。

【委員】

いろいろと貴重な御意見を聞かせていただきまして、なるほどなといった話が多かったのではないかと思います。今日いただいたお話というのは、必要最低限必要な要望でなかったのではないかなという気がしました。今日いただいた資料8ページの利用状況から、平均であれば年間39,000人あまり、この利用の実態として必要な今欠けている話でなかったのではないかなという気がしました。この在り方検討会議で目指すべきところはどこなのか。現状39,000人の利用状況に見合う施設にするのか、あるいは飛躍させてより利用が見込めるものにするのかといった議論が必要な気がしました。ぼんやりした話ではありますが、よろしく願いいたします。

【会長】

ありがとうございます。

【委員】

私は先ほどコンベンションの話などをさせていただきました。いろいろと話をお伺いすると、今までスピードガンを設置していたりナイター設備を充実されたりといった件に関して、非常にお褒めの言葉が私の方まで届いております。これまでの県の資金がない中での御尽力に感謝をしております。一方で、様々な話が出ていますが、練習場所や駐車場の話も届いております。当然資金にも限度があるので順次改築や改修をしていく話になっていくと思いますが、少しでもグレードがあがっていけるように御期待を申し上げておきます。

【会長】

最後になりますが、お願いします。

【委員】

はい、1番大事なことを考えているのが安全安心な施設であるということだと思っております。ですので、コンクリートの剥落などの落下物があることや、スタンドが傾いていて少し歩くのが危ないといった施設の心配は完全にクリアできるような施設がありがたいので、そういったところを中心に考えていただけたらと思います。

【会長】

ありがとうございます。少し時間が過ぎてしまいました。申し訳ございません。本日委員から先ほど御指摘をもらいました、今回御要望が多かったので、こういうふうにしてほしい、こういうふうになってくれたらといったこともあります。今後の進め方として、先ほど委

員からもありましたように、どういったものを目指すのか、我々が希望の光や夢といった言葉が出てくるように、今の現状維持でいいのかそれとも観客もたくさん来てくれる、リピーターも増やしたい、徳島にこんな球場があるんだぞというような県内外の方々にアピールしたいとするならば、そしたらどういったものが必要なのかといったところだと思います。例えば、プロ野球が誘致できるであるとか、利用状況をどのくらいを目標としたいのかなど、ある程度目標を持たなければなかなかそれに見合った施設というのは造りにくいのかなと思います。司会不手際で本日はそういったところまで議論でませんでした、今後の議論の中で皆様からそれぞれに、こういった施設にしてほしいやはりこの場はあまり小さくなってしまうと夢のあるものがないと思いますので、こんなものができたら良いなという皆様の思いをお持ちいただいて今後の議論に反映いただけたらと思います。今日はなかなかいいですか、元々まとめるつもりもなかったのですが、皆様方からいろいろな御意見が頂戴できたかと思っておりましたので、活発な御意見どうもありがとうございました。まだまだ言い足りないところはあるかとは思いますが、今後どうぞよろしくお願いいたします。それでは事務局の方に今後のスケジュールについて説明していただきたいと思います。

【事務局】

はい。それではお手元の資料3を御覧ください。第2回目の検討会議につきましては、1月の中旬から下旬を目途に開催をする予定でございます。次回の会議におきましては、オロナミンC球場の現地を皆様に直接御覧いただいて老朽化等の現状を直接御確認いただきたいと考えています。また今回の会議の中で頂戴いたしました御意見につきましては事務局でカテゴライズしてお示しすることといたしますので、まずもって今日言い足りなかったことがございましたら、1月の初旬頃までにメールもしくは電話を頂戴できましたらその中に入れさせていただきます。そして、御意見をカテゴライズし整理してお示しさせていただく予定とさせていただきます。その後ですが、第3回の検討会議を2月の上旬に開催いたしまして、パブリックコメントの実施などを経まして3月の下旬から4月頃を目途にオロナミンC球場の今後の整備に向けた基本計画をとりまとめていたいと考えております。タイトな日程の中での検討をお願いしており大変恐縮ではございますが、引き続き御協力いただきますようどうぞよろしくお願いいたします。以上でございます。

【会長】

ありがとうございました。以上をもちまして第1回徳島県鳴門総合運動公園在り方検討会議を終了させていただきます。司会不手際で少し延長してしまいました。お許しいただきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。